

特42

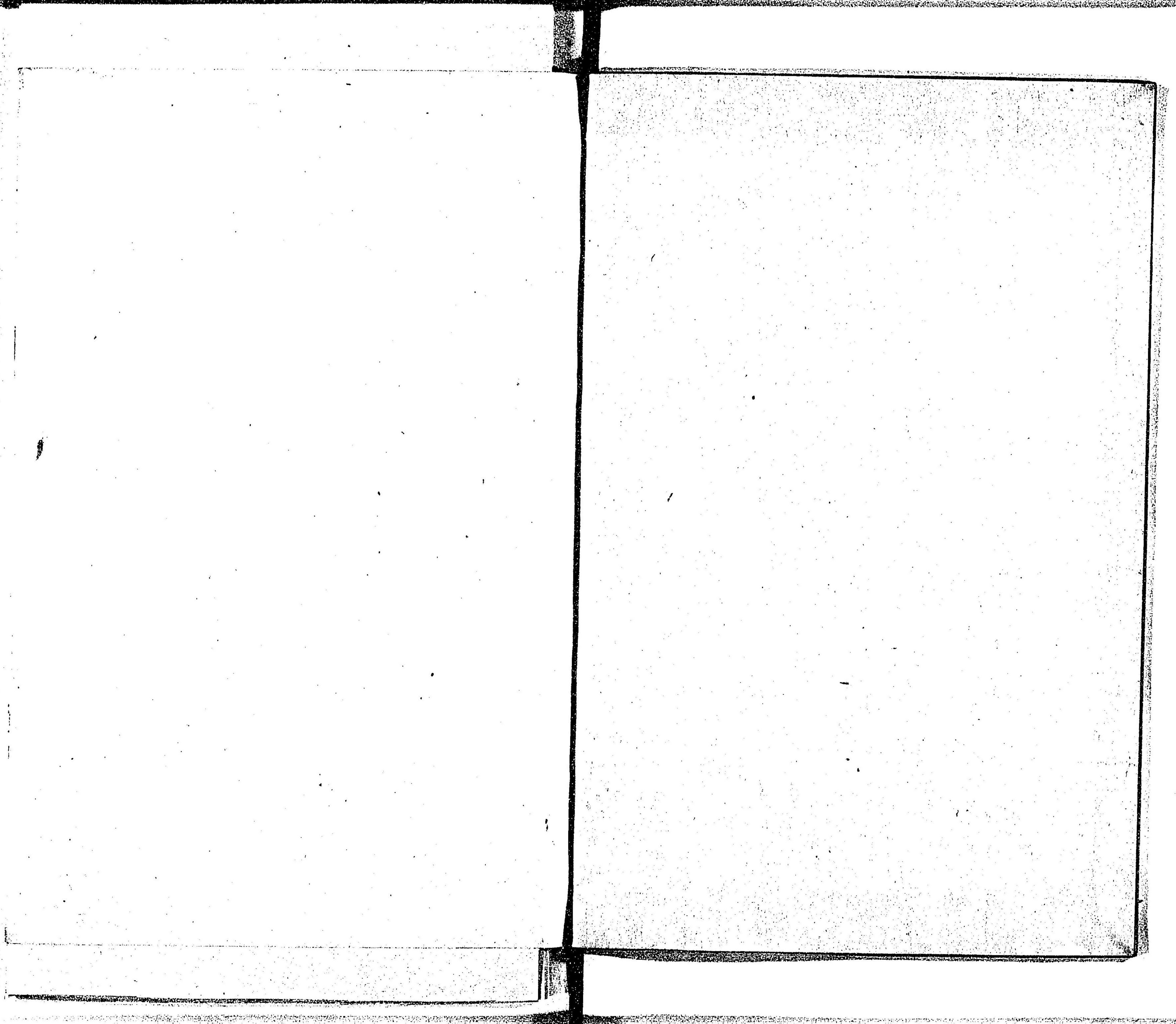
452

多々母
能坂
字移女
其乃河
鐘魁

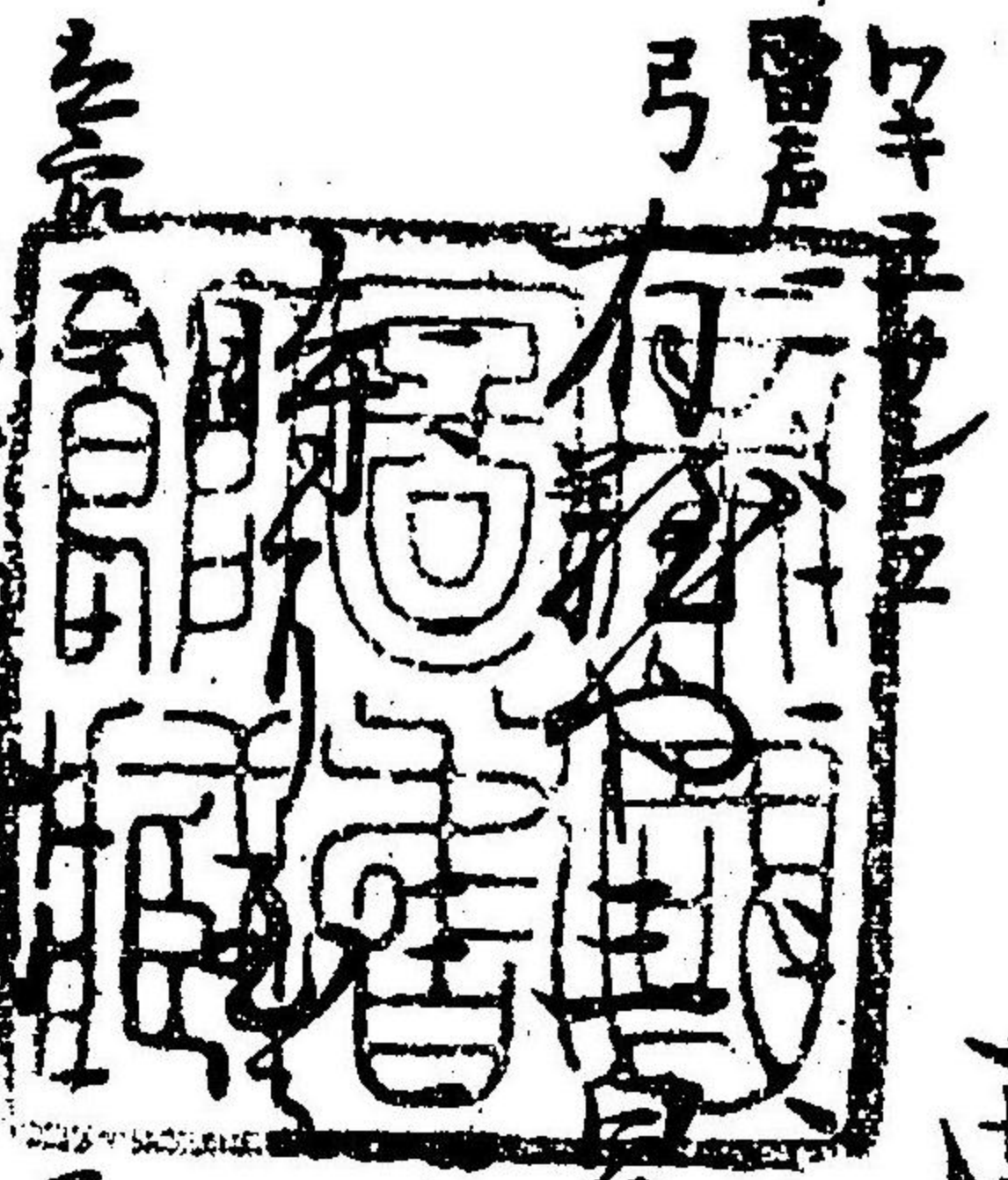
廿

255

108



西五母



其ハ國光を日暮ふもく 其ハ五帝ノ世ニシテ今ノ世ニシテハ

あめだのふな 曲ふしり手ハあま

天ノカサキ 地ノミナラキ 北辰を

拱き新あきの 萬をよめし星

44

老々々々百官所お雲あわゆる戸方
乃旗を靡く洋とよこなく四方の
門庭を冠する市をなす金銀珠玉
光りてまじく光の赫奕として日夜
勝あはくともなりかたなりけり
見城其たのりて心へて
桃李おしるもあはくしるもあはく
な

一貴賤ありしを倭もあはくしるもあはく
四季おしるもあはくしるもあはく
つるもあはくしるもあはくしるもあはく
法の水たおしるもあはくしるもあはく
あはくしるもあはくしるもあはくしるもあはく
かたもあはくしるもあはくしるもあはくしるもあはく
あはくしるもあはくしるもあはくしるもあはくしるもあはく

美玉觴ふるに松を侍たり年よ
取らば君もはく松栴
の香もあつらひ花もさくや杯
乃く年先座より曲水茗宴を
玉浦のより裁きたるは福あり
袖も裳裾もきなひたはるく
梅多喜風より和はる雲はく

美玉母も侍ひよちのち玉母も
よなひよち天路のゆくも
きそなひよち

熊坂

早信守

何と定むらん 是れ却るるや
 僧もて作新いさし東國とカス
 此度さしき東國行旅と志し
 くの仮枕 宿はあまの
 もも同くはるの美濃四青野の

又云、俗に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎

手柄似合ぬ僧の擽るをさうし
を思ふに「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎
に佛に「佛に水信叫ぶ其意、毎

他は是れがあはれぬまじきものなり
心もわがまじき師のまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
かまじきまじきまじきまじき
あはれまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき

あはれまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき
まじきまじきまじきまじきまじき

海にわたる花の香りの

本を裁く神の御業の

を御覧の御業の御業

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

乃海にわたる花の香りの

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

の御業の御業の御業

きぬ女のうらりけぬと
さき露の情もあけさるる
甚しき安積とけしき
山乃井の深き人思ふ心
のたけ風もあはれ雲静
安全とあはれおきぬ采女
れたるきりあはれ花鳥

夢かかるとおきぬ袖もあはれ
登壇の清遊のよのきり采女
のさあらの色さく大宮人小長
衣襟をかきぬとあはれおきぬ
とさきあはれおきぬとさき
拍子とさきくたさきとさき
楽回響の采女とあはれおきぬ
取

分^ニマ^ニま^ニれ^ニめ^ニ曲^ニ水^ニの^ニえ^ニん^ニだ^ニあり^ト
時^ニ流^ニり^ニけ^ニ度^ニに^ニめ^ニり^ニ在^ニ明^ニに^ト
月^ニ交^ニる^ニ山^ニ松^ニ宇^ニに^ニさ^ニし^ニひ^ニら^ニな^ニる^ニ家^ニ
處^ニを^ニう^ニけ^ニく^ニ拖^ニ樂^ニ乃^ニ月^ニと^ニた^ニの^ニ節^ニ
月^ニ又^ニな^ニけ^ニ河^ニ一^ニ雲^ニ井^ニた^ニ蜀^ニ卷^ニ
天^ニ津^ニそ^ニの^ニの^ニ萬^ニ代^ニあ^ニら^ニふ^ニあ^ニあ^ニ
代^ニか^ニら^ニし^ニ物^ニを^ニあ^ニら^ニ本^ニを^ニひ^ニた^ニ

あ^ニら^ニふ^ニあ^ニら^ニふ^ニあ^ニら^ニふ^ニあ^ニら^ニふ^ニあ^ニら^ニふ^ニ
ち^ニま^ニら^ニせ^ニし^ニて^ニは^ニ本^ニの^ニう^ニら^ニな^ニり^ト
名^ニは^ニし^ニり^ニ鳥^ニの^ニ跡^ニた^ニる^ニ天^ニ地^ニ穩^ニ
万^ニ國^ニ古^ニ安^ニ穩^ニの^ニ四^ニ海^ニ波^ニ静^ニた^ニら^ニし^ト
猿^ニ澤^ニの^ニゆ^ニき^ニ面^ニく^ニる^ニ水^ニ蕩^ニく^ニ吃^ニ
し^ニて^ニ浪^ニ又^ニ悠^ニ々^ニな^ニら^ニし^ニ石^ニ根^ニを^ニ
雲^ニお^ニら^ニし^ニて^ニ雨^ニの^ニ凍^ニ膚^ニを^ニら^ニし^ニな^ニり^ト

いかに夜もくは是れ采女也
ゆきとちりあふ積佛柔乃因縁
なす物とていふもさるるに
又波の入りて又流は底よりの

角田河

ワキ男

是に武蔵國隅田河の渡守とて
此河の大事の渡りては
まの舟をさし作合の某ら
たす回をよむ海もた
き事たねとていふもさるるに
是れ東國方の高入とて

早
かろか 狂女たのまふいんかんと者て

名も おのまふいんかんと者て

都を考へてなまふいん

百もあふむ彼も并境にて

なまふいんかんと者て

人なまふいんかんと者て

あていんかんと者て

なまふいんかんと者て

あていんかんと者て

なまふいんかんと者て

鳥とてなまふいんかんと者て

なまふいんかんと者て

なまふいんかんと者て

なまふいんかんと者て

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or diary entry. The text is written in a fluid, connected style with some capital letters and punctuation marks.

Handwritten text in a cursive script, continuing the narrative or message from the previous page. The handwriting is consistent and legible.

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、
一百一、
一百二、
一百三、
一百四、
一百五、
一百六、
一百七、
一百八、
一百九、
二百、
二百一、
二百二、
二百三、
二百四、
二百五、
二百六、
二百七、
二百八、
二百九、
三百、
三百一、
三百二、
三百三、
三百四、
三百五、
三百六、
三百七、
三百八、
三百九、
四百、
四百一、
四百二、
四百三、
四百四、
四百五、
四百六、
四百七、
四百八、
四百九、
五百、
五百一、
五百二、
五百三、
五百四、
五百五、
五百六、
五百七、
五百八、
五百九、
六百、
六百一、
六百二、
六百三、
六百四、
六百五、
六百六、
六百七、
六百八、
六百九、
七百、
七百一、
七百二、
七百三、
七百四、
七百五、
七百六、
七百七、
七百八、
七百九、
八百、
八百一、
八百二、
八百三、
八百四、
八百五、
八百六、
八百七、
八百八、
八百九、
九百、
九百一、
九百二、
九百三、
九百四、
九百五、
九百六、
九百七、
九百八、
九百九、
一千、
一千一、
一千二、
一千三、
一千四、
一千五、
一千六、
一千七、
一千八、
一千九、
二千、
二千一、
二千二、
二千三、
二千四、
二千五、
二千六、
二千七、
二千八、
二千九、
三千、
三千一、
三千二、
三千三、
三千四、
三千五、
三千六、
三千七、
三千八、
三千九、
四千、
四千一、
四千二、
四千三、
四千四、
四千五、
四千六、
四千七、
四千八、
四千九、
五千、
五千一、
五千二、
五千三、
五千四、
五千五、
五千六、
五千七、
五千八、
五千九、
六千、
六千一、
六千二、
六千三、
六千四、
六千五、
六千六、
六千七、
六千八、
六千九、
七千、
七千一、
七千二、
七千三、
七千四、
七千五、
七千六、
七千七、
七千八、
七千九、
八千、
八千一、
八千二、
八千三、
八千四、
八千五、
八千六、
八千七、
八千八、
八千九、
九千、
九千一、
九千二、
九千三、
九千四、
九千五、
九千六、
九千七、
九千八、
九千九、
一万、
一万一、
一万二、
一万三、
一万四、
一万五、
一万六、
一万七、
一万八、
一万九、
二万、
二万一、
二万二、
二万三、
二万四、
二万五、
二万六、
二万七、
二万八、
二万九、
三万、
三万一、
三万二、
三万三、
三万四、
三万五、
三万六、
三万七、
三万八、
三万九、
四万、
四万一、
四万二、
四万三、
四万四、
四万五、
四万六、
四万七、
四万八、
四万九、
五万、
五万一、
五万二、
五万三、
五万四、
五万五、
五万六、
五万七、
五万八、
五万九、
六万、
六万一、
六万二、
六万三、
六万四、
六万五、
六万六、
六万七、
六万八、
六万九、
七万、
七万一、
七万二、
七万三、
七万四、
七万五、
七万六、
七万七、
七万八、
七万九、
八万、
八万一、
八万二、
八万三、
八万四、
八万五、
八万六、
八万七、
八万八、
八万九、
九万、
九万一、
九万二、
九万三、
九万四、
九万五、
九万六、
九万七、
九万八、
九万九、
十万、
十一万、
十二万、
十三万、
十四万、
十五万、
十六万、
十七万、
十八万、
十九万、
二十万、
二十一万、
二十二万、
二十三万、
二十四万、
二十五万、
二十六万、
二十七万、
二十八万、
二十九万、
三十万、
三十一万、
三十二万、
三十三万、
三十四万、
三十五万、
三十六万、
三十七万、
三十八万、
三十九万、
四十万、
四十一万、
四十二万、
四十三万、
四十四万、
四十五万、
四十六万、
四十七万、
四十八万、
四十九万、
五十万、
五十一万、
五十二万、
五十三万、
五十四万、
五十五万、
五十六万、
五十七万、
五十八万、
五十九万、
六十万、
六十一万、
六十二万、
六十三万、
六十四万、
六十五万、
六十六万、
六十七万、
六十八万、
六十九万、
七十万、
七十一万、
七十二万、
七十三万、
七十四万、
七十五万、
七十六万、
七十七万、
七十八万、
七十九万、
八十万、
八十一万、
八十二万、
八十三万、
八十四万、
八十五万、
八十六万、
八十七万、
八十八万、
八十九万、
九十万、
九十一万、
九十二万、
九十三万、
九十四万、
九十五万、
九十六万、
九十七万、
九十八万、
九十九万、
一百万

月の夜に佛法を以て心へ西へ
一、南無や西方極樂世界二十
六萬億回号同名ありしに
大仏なむ阿耨多羅三藐三菩提
阿耨多羅三藐三菩提なる佛
隅田河原の波風も勢なきに
なほ阿耨多羅三藐三菩提なる

三
明行^{ミョウギョウ}希^スり^リあ^アの^ノき^キを^ヲく^ク我^ガを^ヲく^ク
き^キ塚^{ツカ}乃^ノく^クき^キ妙^{ミョウ}を^ヲく^ク
た^タき^キ路^ロを^ヲく^ク清^{セイ}茅^{モウ}と^トあ^アな^ナ
き^キあ^アれ^レた^タり^リと^トき^キ

鐘 旭

ワキ男

是^{コト}の^ノあ^アら^ラう^ウ修^{シュ}南^{ナン}山^{サン}の^ノあ^アら^ラう^ウに^ニ住^{ジュ}居^グ
き^キる^ル者^{モノ}少^{オウ}く^ク作^{サス}我^ガ帝^{テイ}初^{ハツメ}の^ノ美^ミ同^{ドウ}ゆ^ユに^ニ
き^キ事^{コト}あ^アら^ラう^ウの^ノ唯^{タカ}今^{イマ}帝^{テイ}初^{ハツメ}の^ノ趣^{スエ}に^ニ
引^{ヒキ}上^{ノボ}修^{シュ}南^{ナン}山^{サン}を^ヲ立^{タテ}出^デて^テ野^ノ草^{クサ}に^ニ露^{ツキ}を^ヲ
多^{オホ}かり^リの^ノ遠^{トホ}村^{ムラ}の^ノ煙^{ケムリ}を^ヲち^チり^リ入^イ屋^ヤを^ヲち^チり^リ見^ミる^ル
望^{ノゾミ}の^ノ海^{ウミ}路^ロを^ヲく^ク釣^{ツリ}れ^レ小^コ舟^{フネ}を^ヲ

の代は鐘馗としは進まあるう及亦
乃砌は自口さしは進まを觀し後
世は其の鐘馗の鐘馗の鐘馗
せりうれあき進まなり其の身は
てまはあより中なるま
くれ物冷き折らぬ
露はちりきしきしき
露はちりきしきしき

老は既風たんとは
空も何事も思ひな
終るそらあを
ためんは風の
若回を教く安く三
泡きそのまは清く
ふる有為のち

の懐のうちに無漏の願力あるを
も、榮氣は是春のたれ、此のよるに
うけたるも、かきおとするも、人の
の秋の光を、何れも、増え、減す
る、なる、あり、秋、葉の、く、た、ん、
葉、の、お、も、り、の、事、象、一、た、り、
の、ま、は、ら、の、ま、は、ら、の、ま、は、ら、の、ま、は、ら、

朝、^テ花、^トあ、^リあ、^リあ、^リ
も、^ハな、^シな、^シな、^シな、^シな、^シ
な、^シな、^シな、^シな、^シな、^シな、^シ
な、^シな、^シな、^シな、^シな、^シな、^シ
田、^ノ長、^ノ花、^ノを、^タら、^シた、^ラシ、^タ
な、^シな、^シな、^シな、^シな、^シな、^シ
田、^ノ鶴、^ノ音、^をな、^シな、^シ
四、^ノ半、^ノの、^田長、^ノ花、^ノを、^タら、^シた、^ラシ、^タ
な、^シな、^シな、^シな、^シな、^シな、^シ
な、^シな、^シな、^シな、^シな、^シな、^シ
な、^シな、^シな、^シな、^シな、^シな、^シ

おぼろげに横道に歩くと
又横道に歩くと
さうして都を亂れ
まゝなる所を行く
さうして
おぼろげに横道に歩くと
又横道に歩くと
さうして都を亂れ
まゝなる所を行く
さうして
おぼろげに横道に歩くと
又横道に歩くと
さうして都を亂れ
まゝなる所を行く
さうして

おぼろげに横道に歩くと
又横道に歩くと
さうして都を亂れ
まゝなる所を行く
さうして
おぼろげに横道に歩くと
又横道に歩くと
さうして都を亂れ
まゝなる所を行く
さうして
おぼろげに横道に歩くと
又横道に歩くと
さうして都を亂れ
まゝなる所を行く
さうして

續

七

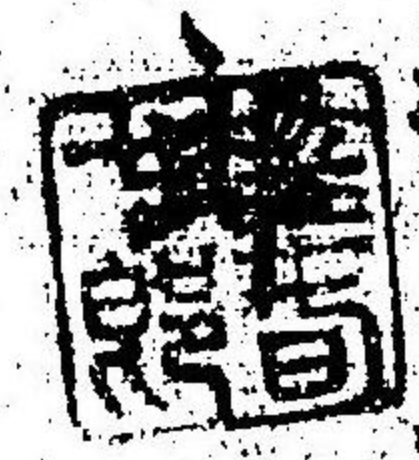
255
108

著作權所有

明治四十年十二月廿三日印刷
明治四十年十二月廿七日發行

著作者

金春七



奈良市東城戸町三十八番地

發行所
印刷者

江島伊兵衛



東京市日本橋區通四丁目七番地

發行所

梶屋謡曲書肆

同市同町同番地

